

矢作川流域圏 担い手づくり事例集Ⅸ（流域圏V）

【これまでの事例集づくりについて】

- ・中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・2019～20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・2021年度は学童保育木造化プロジェクト、2022年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクトを取材対象とし、都市を巻き込んだ流域圏づくりを支える複数の方を取材して、その立体像を描く「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・2017～19年度および2023年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

事例集のあゆみ

| 発行年度 | タイトル | 調査団体数 | 備考 |
|---------------|-----------------------------------|---------------------------|--|
| 2013 (H25) 年度 | 山村再生担い手づくり事例集 | 21団体 (山: 21) | |
| 2014 (H26) 年度 | 山村再生担い手づくり事例集Ⅱ | 21団体 (山: 17、川: 2、海: 2) | 川・海の活動団体を取材先に加える |
| 2015 (H27) 年度 | 山村再生担い手づくり事例集Ⅲ | 22団体 (山: 18、川: 2、海: 2) | |
| 2016 (H28) 年度 | 山村再生担い手づくり事例集その後のいかがお過ごですか？プロジェクト | 17団体 (山: 17) | 2013年度の取材先を再取材 |
| 2017 (H29) 年度 | 流域圏担い手づくり事例集 | 19団体 (山: 12、川: 6、海: 1) | 山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行 |
| 2018 (H30) 年度 | 流域圏担い手づくり事例集Ⅱ | 19団体 (山: 11、川: 7、海: 1) | 流域圏担い手づくり事例集交流会 2018 開催 (於・佐久島、2018.4.14) |
| 2019 (R1) 年度 | (流域圏懇談会10年誌作成・担い手づくり事例集の振り返り) | — | 流域圏担い手づくり事例集交流会 2019 開催 (於・岡崎市、2019.6.22) |
| 2020 (R2) 年度 | | | |
| 2021 (R3) 年度 | 流域圏担い手づくり事例集Ⅲ | 1プロジェクト (個人: 6、施設: 3) | 取材対象: 学童保育木造化プロジェクト |
| 2022 (R4) 年度 | 流域圏担い手づくり事例集Ⅳ | 1プロジェクト (個人: 15) | 取材対象: 錦二丁目都市の木質化プロジェクト |
| 2023 (R5) 年度 | 流域圏担い手づくり事例集Ⅴ (予定) | 1プロジェクト | 流域圏担い手づくり事例集交流会 2023 開催 (於・豊田市、2023.5.19) |

【今後の事例集について】

- ・2023～2025年度にかけて流域を取り上げる。

2023 海編 2024 川編（豊田市矢作川研究所創立30年） 2025 山編 でどうだろうか？

- ・引き続き、一つのプロジェクト（テーマ）に関わる人々・団体を取材対象とする。今年度は伊勢湾、三河湾の海の豊かさについて取り上げる。



- ・「大きな人口を抱える都市自体も流域圏の「いいとこどり」で成り立っている存在なのではないか、そのことを意識して山を見なければならないのだろう。山の管理だけでなく、海もそうだ。上流の都市（だけではないが）が経済的で便利・快適、効率的な暮らしをするための代償として、大量のプラスチックごみを受け入れることとなる。誰が本当にそれを負担すべきなのだろうか。」（流域圏担い手づくり事例集IV、p40）

【2023年度海編の事例集について】

- ・冒頭、以下について寄稿いただく ~昨今海部会で話題となっている貧栄養の問題について~
 - ①青木伸一座長に「伊勢湾など海の現状について」(仮題)
 - ②鈴木輝明さんに「三河湾の現状について」(仮題)
- ・取材先について (取材日)
 - ①愛知県水産試験場 (調整中)
 - ②三重県水産研究所 (調整中)
 - ③鳥羽市水産研究所 岩尾豊紀所長 (1/24 13時~ 取材 参加者募集中!)
(藻類に関する研究、海域の観測、海洋教育への協力、多分野連携による産業振興等に取り組む)
 - ④三重県鳥羽氏立海の博物館 平賀大蔵館長 (調整中)
 - ⑤鳥羽市長 中村欣一郎氏 (9/28済)
(鳥羽の海に伊勢湾の豊かさと、ごみの漂着など環境問題が集約されていることを認識。
協働による環境改善と観光振興の両立をめざす)
- ・その他、寄稿について
 - ①藏治光一郎 (山部会座長) に「山と海の対立構造にしてはならない」(仮題)
 - ②近藤朗 奈佐の浜プロジェクト委員会事務局長が「海岸漂着ごみ問題について」関係者取材などをまとめる
- ・今後、取材の日程が確定でき次第、事例集用のメーリングリストにて
取材に同行したい方を募集する。
事例集メーリングリストへの加入希望者は、事務局補佐まで連絡。

